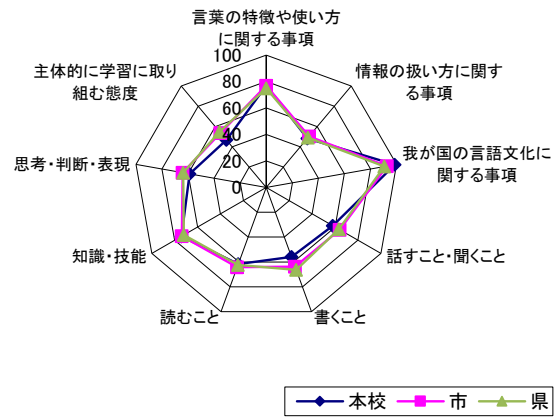


宇都宮市立陽西中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.9	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	48.4	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	98.7	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	58.1	64.2	63.4
	書くこと	55.8	63.7	66.4
	読むこと	61.7	64.2	62.5
観点	知識・技能	74.0	73.7	71.9
	思考・判断・表現	58.9	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	46.8	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

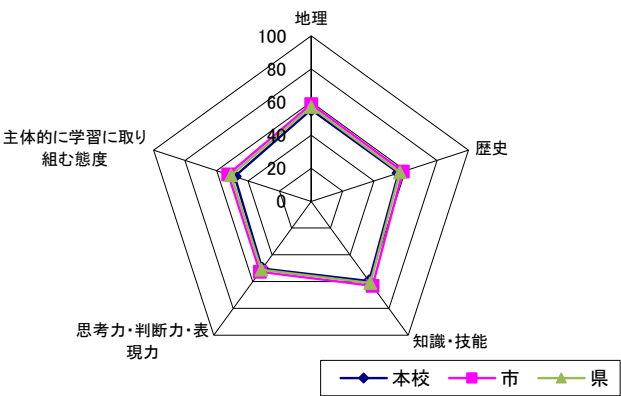
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均を2ポイント上回り、市の平均とは同じであった。 ○第1学年までに学習した漢字の書きについては、県・市の平均を10ポイント程度上回ったものがあった。 ●故事成語の意味から、使い方を答える問題は、県の平均を1.2ポイント、市の平均を2.2ポイント下回った。	・授業で漢字の小テストを行ったり、タブレットなどで問題を解いたりしながら、漢字の読み書きについては普段からドリル学習を通して知識を定着させる。 ・故事成語は1年次に学習したが、「国語便覧」(資料集)などを用いてより多くの言葉に触れさせる。その際、意味だけを教えるのではなく、用例なども考えさせながら様々な言葉を学ばせる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均を0.8ポイント、市の平均を1.9ポイント下回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈」する書き抜き問題では、県の平均とは同じで、市の平均を1.4ポイント下回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが明確になるように、話の構成を考えて」条件に合わせて書く設問では、県の平均を1.6ポイント、市の平均を2.4ポイント下回った。	・授業において、情報と情報との関係の表し方(自分で得た情報を図や絵、記号などを用いて整理すること)を学ぶことで、情報をわかりやすく整理したり、複雑な関係を把握したり、自分の考えを明確にしたりできることを実践を通して学ばせる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均を8ポイント、市の平均を6.1ポイント上回った。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問では校内正答率が98.7ポイントで、県の平均を8ポイント、市の平均を6.1ポイント上回った。	・歴史的仮名遣いを含め、古典の学習においては苦手意識をもつ生徒も多いので、興味・関心をもたせ授業に取り組みやすくなるような工夫をする。その上で、文章を音読させ、五感を使って古典の文章に慣れさせる。 ・繰り返し音読することで、歴史的仮名遣いも自然に覚えられるようにさせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均を5.3ポイント、市の平均を6.1ポイント下回った。 ●「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめて」条件に合わせて書く設問では、県の平均を7.7ポイント、市の平均を10.1ポイント下回った。 ●「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」との設問では、県の平均を7.3ポイント、市の平均を8.3ポイント下回っており、課題が見られる。	・「話す・聞く」を中心にした単元では、必要な情報を収集することを意識させ、ただ受動的に聞くのではなく、話の内容を捉え、考えをまとめながら相手の話を能動的に聞けるよう指導する。 ・授業の中でもメモをとったり質問したりしながら、話の内容を捉え、考えをまとめる練習をする。 ・普段から、話し手の意図を正確に聞き取れるように注意しながら聞くことを心掛けさせる。
書くこと	平均正答率は、県の平均を10.6ポイント、市の平均を7.9ポイント下回った。 ●「2段落構成で文章を書いている」との設問では、県の平均を11.7ポイント、市の平均を8.7ポイント下回った。 ●「読み取った内容を明確にして書いている」との設問では、県の平均を10.8ポイント、市の平均を9.6ポイント下回っており、課題が見られる。	・授業の中で、様々な形式(400字以上の作文や文字数指定の短文など)での書き方に慣れさせたり、優れた文章を読んだりすることで、書く力の素養をつける。 ・今後も、自分の立場や根拠をはっきりさせながら書く学習の機会を多く設け、内容を明確にして書く力を身に付けさせる。
読むこと	平均正答率は、県の平均を0.8ポイント、市の平均を2.5ポイント下回った。 ○「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている」との設問では、県の平均を2.2ポイント、市の平均を0.3ポイント上回った。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」との設問では、県の平均を2.8ポイント、市の平均を4.2ポイント下回っており、文学的文章の心情の読み取りに課題が見られる。	・説明的文章においては、授業の中で段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る工程を丁寧に学習させていく。また、筆者の書き方の工夫や論の進め方についても考えさせ、自分なりの考え方をもたせるよう指導する。 ・文学的文章を学習する際には、登場人物の心情を捉えるポイントなどを指導する。また、心情の読み取りや主題の把握のためにも文章表現や書き方に着目し、どのような特徴や工夫があり、どのような効果を上げているのかを考えさせる。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.4	58.7	57.0
	歴史	55.6	58.3	56.4
観点	知識・技能	59.6	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	50.2	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	48.5	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

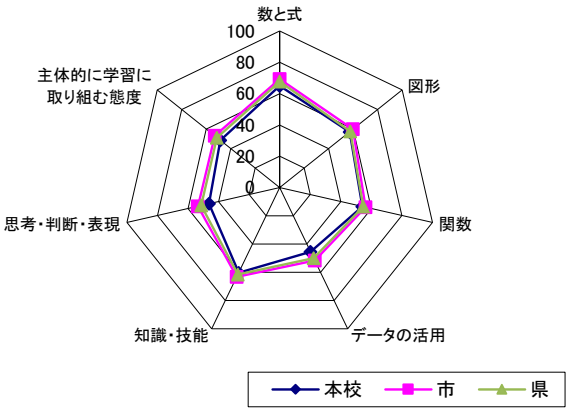
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○世界の諸地域の問題では、アメリカ合衆国についての問題の正答率が、県の平均を1.0ポイント、市の平均を1.6ポイント上回った。 ●地理分野全体の正答率は、県の平均を1.6ポイント、市の平均を3.3ポイント下回っている。 ●世界の諸地域の問題では、アジア州における農作物の生産量に関する正答率が市平均を1.6ポイント下回った。	・日本の姿の学習では、小学校での学習内容を振り返りながら、新出の内容を学習していくようにしたい。 ・世界各地の人々の生活と環境で、気候帯や気候区分などの基本内容が定着するよう、映像資料や写真資料を活用していく。また、世界の諸地域の学習でも既習事項と関連付けながら学習できる授業の工夫を行う。 ・毎時間の授業で前時の学習内容の復習を取り入れることや、小テストなどの実施を行い知識の定着を図る。 ・資料や図の読み取りについては、一つの資料について考え、自分の言葉で表現する活動を積極的に取り入れていく。また、単元ごとに学習の見通しを立てることや、単元の最後には振り返りとして自分の言葉で学習内容をまとめる活動なども取り入れていきたい。
歴史	●歴史分野全体の正答率は、県の平均を0.8ポイント、市平均を2.7ポイント下回っている。 ○縄文～古墳時代においては、古代文明や古墳時代に関わる設問において県平均を5ポイント以上上回る正答率となっている。 ●歴史と地理の総合問題については、記述に関する問題で正答率が低く、県平均を6ポイント以上下回っている。また、無回答率も県平均を上回っている。 ●飛鳥時代～平安時代においては、古代の政治の仕組みに関する問題の正答率が低いものが多く、県平均を10ポイント以上下回るものがあつた。	・毎時間の授業で前時の学習内容の復習を取り入れることや、小テストなどの実施を行い知識の定着を図る。 ・古代の政治制度などに関して、図や資料についてわかりやすい例を示したり、時代ごとの比較をすることで変化や特徴を理解できるようにしていく。 ・資料や図の読み取りについては、一つの資料について考え、自分の言葉で表現する活動を積極的に取り入れていく。また、単元ごとに学習の見通しを立てることや、単元の最後には振り返りとして自分の言葉で学習内容をまとめる活動なども取り入れていきたい。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	65.0	69.3	67.7
	図形	57.1	59.8	57.7
	関数	54.1	56.2	54.7
	データの活用	45.5	51.6	49.9
観点	知識・技能	60.3	63.2	61.5
	思考・判断・表現	46.3	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	48.5	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

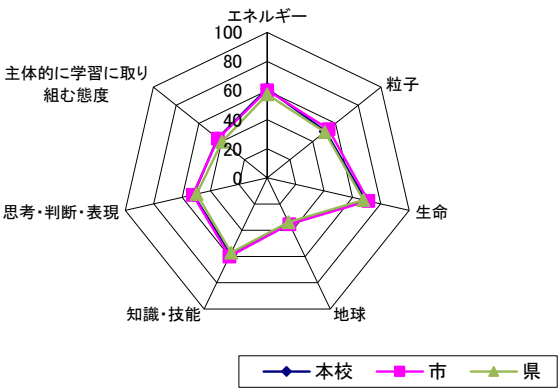
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、県の平均を2.7ポイント、市の平均を4.3ポイント下回った。 ○「1次方程式を解く」、「数量の間の関係を不等式に表す」問題では、県の平均をそれぞれ4.3ポイント上回る正答率であった。 ●「素因数分解」の問題では、県の平均を9.4ポイント下回る正答率であった。	・重要語句の意味、計算技能の向上のため、授業の最初に重要語句、計算問題の復習や小テストなどを取り入れ基礎基本の定着を目指す。 ・AIドリルを活用し、計算力の向上を目指す。
図形	平均正答率は、県の平均を0.6ポイント、市の平均を2.7ポイント下回った。 ○「角の二等分線の性質を利用した、折り目を作図する」問題では、県の平均を7.6ポイント上回る正答率であった。 ●「空間図形で、底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係について正しいものを選択する」問題では、県の平均を4.8ポイント下回る正答率であった。	・図形の性質、公式などの確認を掲示物で示すなど丁寧に行うことで、全体的なレベルアップを図っていく。 ・円錐や円柱の体積では、デジタル教科書や模型、タブレットを利用することで、理解しにくい点が、視覚化することで疑問解決につながる指導を目指す。
関数	平均正答率は、県の平均を0.6ポイント、市の平均を2.1ポイント下回った。 ○「比例の関係での、x、yの値の変化の関係について理解している」問題では、県の平均を3.6ポイント上回る正答率であった。 ●「関数について理解している」問題では、県の平均を6.1ポイント下回る正答率であった。	・比例・反比例の分野は、関数の学習の中で、2年生の1次関数、3年生の2乗に比例する関数につながる大切な領域である。比例・反比例の内容を復習しながら、1次関数の学習に取り組ませていく。 ・表、式、グラフなどの基本的な事項についてのつながりを再確認する。また、数学的に説明する問題や与えられた式から情報を読みとるような問題に多く取り組ませることで、実力アップを図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均を4.4ポイント、市の平均を6.1ポイント下回った。 ●「示された考えが正しいことを、2つの度数折れ線から読み取った傾向をもとに、説明することができる」問題では、県の平均を9.7ポイント下回る正答率であった。	・資料の整理の分野では、特にデータの分布の傾向の習熟が不十分であった。また、度数分布表から相対度数を求める方法や、示された模様の基となる三角形の模様を選ぶ問題についても正答率が低い。今後は表やヒストグラムから相対度数を求める問題の練習の機会を増やしていく。また、語句を使って説明する問題を練習する機会を増やし、思考力や理解力を高めていく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	61.3	60.3	57.4
	粒子	51.3	53.8	50.7
	生命	69.4	71.2	67.8
	地球	35.1	35.3	33.8
観点	知識・技能	57.9	59.9	57.0
	思考・判断・表現	52.1	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	43.5	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

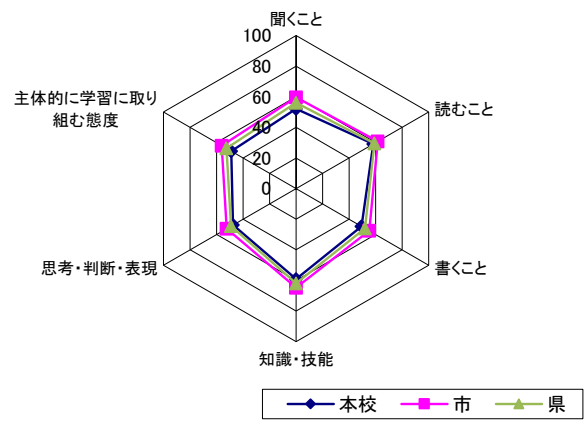
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、県の平均を3.9ポイント、市の平均を1.0ポイント上回った。 ○おもりがばねを引く力を矢印で表す問題では、県の平均を13.0ポイント上回る正答率であった。 ●弦をはじいたときの振れ幅を、「振幅」ということを理解しているかの問題では、正答率が75.6ポイントと高いものの、県の平均と同じであり、単純な知識問題に課題が見られる。	・今後も視覚的に理解できる現象は図示することで、現象の深い理解を育てていく。視覚化する力は、2年生の原子・分子や、3年生の合力・分力でも役立つことが期待できる。 ・一問一答のような問題演習をする機会を設けるために、小テストを行ったり、前時の復習を行ったりするなどの工夫を行う。
粒子	平均正答率は、県の平均を0.6ポイント上回り、市の平均を2.5ポイント下回った。 ○水素自動車は、水を排出することを指摘する問題では、県の平均を11.2ポイント上回る正答率であった。 ●二酸化炭素の発生に必要な物質の組み合わせを選ぶ問題では、県の平均を10.5ポイント下回り、気体の発生についての知識不足が見られる。	・ガソリン自動車と水素燃料自動車の違いなど、身近な事象についての理解ができていない。今後も理科と生活の関連に触れ、理科を身近に感じられる場を設定していく。 ・石灰石とうすい塩酸から二酸化炭素が発生することは、地球の単元の石灰岩とチャートの見分け方でも登場する。繰り返し学習することで知識を定着させていく。
生命	平均正答率は、県の平均を1.6ポイント上回り、市の平均を1.8ポイント下回った。 ○軟体動物とそれ以外の無脊椎動物を分類する問題では、県の平均を6.9ポイント上回る正答率であった。 ●植物を分類する基準を答える問題では、県の平均を2.2ポイント下回った。	・植物分野、動物分野ともに知識の積み上げができていない生徒とそうでない生徒がいる。生物の体のつくりやはたらかし等、探究し観察・実験を行っていくとともに、基礎的・基本的な内容を丁寧に説明していく。復習を行うことで知識を定着させていく。
地球	平均正答率は、県の平均を1.3ポイント上回り、市の平均を0.2ポイント下回った。 ○地震によって発生するP波とS波についての問題では、県の平均を10.6ポイント上回る正答率であった。 ●双眼実体顕微鏡の使い方に関する問題では、県の平均を10.5ポイント下回る正答率で、器具の使い方に課題が見られた。	・実験器具の使い方を丁寧に説明して、器具を正確に使いこなせる知識を育てたうえで、実践的な場の設定を行い、技能を身に付けさせる。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	52.1	59.6	56.1
	読むこと	58.2	61.6	59.1
	書くこと	49.3	55.2	51.9
観点	知識・技能	59.1	64.7	61.9
	思考・判断・表現	47.5	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	48.9	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、県の平均を4.0ポイント、市の平均を7.5ポイント下回った。 ●絵を適切に表している英文を聞き取る問題は、県の平均を5.0ポイント以上下回った。 ●対話の内容を聞き取り、適切に回答する問題では、市の平均を6.0ポイント以上下回っているものがあり、課題が見られる。	・様々な問題形式に対応できるようにするため、適切にメモを取りながら英文を聞く練習をより多く取り入れていく。 ・英語を英語のまま理解できる耳を育てるため、普段の授業で英語を聞く機会を十分に確保し、音読練習も強化することで、相乗効果が図れるような指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は、県の平均を0.9ポイント、市の平均を3.4ポイント下回った。 ○語形・語法の知識・理解を問う問題では、県の平均とほぼ同じか高い正答率だった。 ●長文の読み取りを問う問題では、市の平均を4.0ポイント下回る問題もあり、課題が見られる。	・今後も、教科書の本文理解を通して、絵や映像を参考にしながら、単語の意味を推測し、概要をつかむことができるような指導を工夫し、継続していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を2.6ポイント、市の平均を5.9ポイント下回った。 ○単語の並べかえによる英作文を問う問題は、県の平均とほぼ同じかやや高い正答率である。 ●3文以上の英作文を書く問題において、市の平均を5.0ポイント以上下回っている問いもあり、課題が見られる。	・自分の力で英文を構成し、まとまりのある文章を作る力を育てるため、習った文法を使って表現する機会をなるべく多く授業の中で確保する。 ・生徒が書いた英文をALTに添削してもらい機会を多く設け、生徒自身が表現したいことについて英語で正確に表現できる力を身に付けるように指導を工夫していく。